

授業科目	映画で学ぶ欧米文化				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期				
担当教員	八尋 春海										
授業概要	映画を通して欧米社会が抱える問題点や特徴を分析しながら、同時に文化を学ぶ。										
授業形態	講義			授業方 法							
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	1 現代の欧米社会が抱える問題点を把握できる。 2 欧米文化の特徴を認識できる。										
理想的 レベル	1 今後起こりうる欧米社会の問題点を予測できる。 2 欧米と日本の文化の違いを認識できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験		45%									
小テスト		40%									
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物		15%									
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリン グ	T031810J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
授業中に示したポイントを再確認する。										4	
授業計画											
第1回	オリエンテーション、欧米諸国の地域性を学ぶ。										
第2回	先住民、アジア系アメリカ人について学ぶ。										
第3回	黒人、イスラム系アメリカ人について学ぶ。										
第4回	ヨーロッパ系アメリカ人について学ぶ。										
第5回	音楽について学ぶ。										
第6回	食の事情、遺伝子組み換え食品について学ぶ。										
第7回	スポーツについて学ぶ。										
第8回	大統領の職務について学ぶ。 小テスト										
第9回	大統領に危機管理について学ぶ。										
第10回	大統領選挙について学ぶ。										
第11回	家族問題について学ぶ。										

第12回	司法制度について学ぶ。
第13回	弁護士について学ぶ。
第14回	マスコミ・学校制度について学ぶ。
第15回	まとめ
テキスト	プリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『週刊金曜日』
課題に対するフィードバックの方法	授業中の解説をその場でいかに理解できるかが重要であり、毎回、授業終了時に重要項目に関する問いを出して、学生にコメントを提出させる。提出されたコメントに対しては、次回の授業の際に理想的なポイントを提示する。また、質問あれば回答し、理解が十分にできていないと思われる内容があれば追加で解説をする。
学生へのメッセージ・コメント	マスコミ報道をうのみにせず、批判的に見る。 アメリカ以外の国の映画を見る。